

日本学術会議会員任命をめぐる問題に関する声明

10月1日、日本学術会議第25期（2020年10月1日～2023年9月30日）の発足にあたり、同会議が推薦した新会員候補者105名のうち6名が、内閣総理大臣により任命されない事態となりました。日本学術会議は、行政・産業及び国民生活に科学や学術を反映・浸透させることを目的として、1949年1月に政府から独立して職務を行なう「特別の機関」として設立されました。アジア鑄造技術史学会日本支部は、これまで同会議の協力学術研究団体として、会員及び連携会員の推薦をおこない、学術会議の活動を支持してまいりました。

一部の推薦会員が十分な理由の説明もないままに任命されずにいる事態が、日本学術会議の活動に困難をきたしていることは、大変遺憾です。さらに、学術会議の意義と活動内容についての社会からの誹謗中傷の遠因にもなっている点、国際的な学会である当会にとっても、看過することは到底できません。日本政府には10月2日付けで日本学術会議から発出された「第25期新会員任命に関する要望書」に従い、6名の会員候補者が任命されない理由をすみやかに説明し、学術会議の推薦通りに任命することを求めます。

アジア鑄造技術史学会日本支部は、日本学術会議が十分な活動を行うことができるよう、今後も協力を続けていく所存です。

2020年12月1日

アジア鑄造技術史学会日本支部